

臨床工学技士の職域の拡大を考えるV

『救急集中治療と臨床工学技士』

日時：平成30年3月10日（土）13:00

場所：近畿大学生物理工学部 アリーナ
（和歌山キャンパス）

※聴講無料



（国宝）根来寺大塔

アクセス：

<http://www.waka.kindai.ac.jp/access/>

【特別講演】

山梨大学医学部救急集中治療医学講座・教授 松田 兼一

（副医学部長，附属病院副院長，前日本人工臓器学会理事長）

『医工学から救急集中治療への挑戦』

【特別講演】

神戸大学大学院工学研究科機械工学専攻・教授 山根 隆志

（医療機器レギュラトリーサイエンス研究会会長，元産業技術総合研究所主幹研究員，
元医薬品医療機器総合機構スペシャリスト）

『人工心臓・血液浄化用血液ポンプの開発とレギュラトリーサイエンス』

【招待講演】

日赤和歌山医療センター医療技術部 臨床工学技術課・係長 山下 繁

『救急集中治療領域での臨床工学の発展と今後の展望』

【企画講演】

日本臨床工学技士会 Y・ボード近畿地区（和歌山担当） 田嶋 勇介

『臨床工学技士会の活動及び役割』

※学外の方で聴講を希望される方は、お申し込みをお願い致します。

【対象者】医療者・企業人・教職員・学生・高校生（保護者）

【申込み方法】①所属、②職名（もしくは学年）、③氏名、④E-mailを明記の上、下記まで
メールにてお申し込みください。

事務局：黒田（E-mail: negoro@waka.kindai.ac.jp）

<http://www.waka.kindai.ac.jp/tea/negoro1/>

代表幹事：古藺 勉（医用工学科）

・寄附研究 ・平成25年度採択 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業

講演の要旨

『医工学から救急集中治療への挑戦』

山梨大学医学部救急集中治療医学講座 松田兼一

演者は医工学の世界から医学の世界へ転身し、古くは重症患者の治療に必要不可欠になっている持続的血液濾過透析療法の開発、最近では安全かつ簡便に施行可能な可搬型小型血液浄化システムの開発に取り組んで来た。これらの取り組みを通して工学と医学のコラボレーションの困難さとそれを克服する考え方について述べる。工学と医学の間には大きな隔りがある。その隔りを越えるためには、工学者が自分の研究は人類のためになる研究であると自信と情熱を持ち続け、医師とのコラボレーションを継続していくことが重要と考える。

『人工心臓・血液浄化用血液ポンプの開発とレギュラトリーサイエンス』

神戸大学大学院工学研究科機械工学専攻 山根隆志

概要:

① 植込み型補助人工心臓の実用化においては、学会、企業、行政の協力でガイドラインを策定し臨床導入に成功した。② 補助循環ポンプ製品の実用化においては、泉工医科と産総研の協力により体外循環ポンプの製品化に成功した。③ 神戸大学での人工心臓・人工腎臓の研究においては、初の可搬型血液濾過システムの研究を行っている。兵庫県COEにより実施中の量産携帯型ブリッジ血液ポンプの研究を紹介する。

『救急集中治療領域での臨床工学の発展と今後の展望』

日赤和歌山医療センター医療技術部臨床工学技術課第二医療機器 山下 繁

当領域における技士の重要性は、近年の診療報酬改定や関連学会で制定された倫理綱領や業務指針で明文化され、その業務が確立された様に見えるが、治療やケア、医療機器・材料の急速な発展に伴い、技士の役割や業務の再考が必要な時期にあると感じる。講演では、当領域での臨床工学の発展と展望を紹介する。

『臨床工学技士会の活動及び役割』

日本臨床工学技士会 Y・ボード近畿地区和歌山担当 田嶋 勇介

臨床工学技士として医療に貢献する、また個人としてのスキルアップを目指す、将来自身の臨床工学技士像を考えた場合、今なにが必要であろうか？日本臨床工学技士会、地方臨床工学技士会の活動報告をし、臨床工学技士となる皆様の将来をより良いものにするきっかけになれば幸いである。